

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもと
づく医療・介護の実践

くらしと健康

発行 医療法人財団 東京勤労者医療会 1部60円
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7
TEL 03(3404)7661
E-mail address yo_sosiki@tokyo-kinikai.com
友の会会員は会費に購読料がふくまれています。

来てもらって大変助かっている

代々木歯科の とりくみ 訪問診療

拡大する地域からの要望

世田谷区

代々木歯科では、来院が難しい患者さんのお宅で「訪問歯科診療」を実施しています。高齢化が進むなか、通院が困難な高齢者の歯科診療への要求が高まっています。在宅での歯科診療をお伝えします。

取材当日の午前中は世田谷区内5件の患者さん宅を訪問。1軒の滞在時間は約40分、家と家との移動時間や代々木歯科から最初の訪問先、最後の訪問先から午後最初の訪問先である東京さくら福祉会近くのレストランまでを合計すると約100分で、運転手も含め4人で昼食を食べられたのは午後2時過ぎになりました。そして、少し休憩をとり午後の訪問先に向か

広範囲な診療圏

訪問歯科診療は、実施する歯科診療所の半径16キロ圏内と定められています。他の歯科医院の多くが半径3〜4キロに止まっているのに対し、代々木歯科は渋谷区、世田谷区、杉並区、中野区、港区、目黒区など広範囲にわたって活動しています。また、おおくほ戸山診療所、外苑診療所農大

生活の場での治療

診療内容は主に口腔ケアと摂食・嚥下のリハビリに力を入れています。患者さんの年齢は40〜90代で、中には意思の疎通もできない人もいます。

Aさん(77歳、男性)



柳田健二医師



川端達子さん



歯の状態を診ている柳田医師

定年退職をした後、近所の歯科にパーキンソン病であることを告げてかかったところ、「そのうち抜けるでしょう」と言われて治療をしてくれなかつたそうです。最近、Aさんから「歯が欠けた」という訴えがあったので、代々木歯科の訪問診療を受けることにしました。Aさんは「大変助かっている」と喜んでいました。



口腔ケアをする川端さん



口腔状態をチェックする柳田医師とカルテに書き写す川端さん

代々木歯科は歯科医師と歯科衛生士の2人で周ります。取材当日は入職3年目の柳田健二医師と15年の経験がある川端達子(さとし)さんが訪問。柳田医師は「お金を持っている人と持っていない人の差がハッキリしている」、川端さんは「患者さんの生活が見えてくると語っていました。『食べる』ことは日々の楽しみの中でもとても大きいです。患者さんが『自分らしい』生活をできるように代々木歯科はより多くの人がかかれるようにしていきます。

Bさん(86歳、女性)

「Bさんは」ステークスもお餅も食べるんですよ」と教えてくれたのは、介護をしている娘さん。脳梗塞後遺症と認知症とパーキンソン症候群のあるBさんは、以前は経管栄養をされ、胃ろうまで検討されていました。現在は農大通り診療所で訪問診療をしています。娘さんも以前、腎盂カ

ンのため片方を摘出しており「疲れやすい」とのことです。現在は上の娘さんが時折泊まりがけで協力をしてくれています。

Cさん(49歳、女性)

「ええいいですよ」と、突然の取材の申し出にCさんのお母さんは優しい笑顔でこたえてくれました。

Cさんは2000年の交通事故がもとで低髄液圧症候群が発症しました。首を上げると気分が悪くなり、ほとんど起き上がれません。そして気圧が下がってくると体調も悪化していきます。Cさんは我々が帰る際、小さな声で「梅雨の季節が苦手なんです」と話してくれました。治療の間、Cさんのお父さんがCさんのことを静かに、そして穏やかな表情で見守っていたことが印象的な光景でした。

千駄の萱

興味を引く見出し、読みやすい紙面、適切なグラフや図、迫力ある写真…大手新聞の記事は手新聞の記事は

様々なテクニクを使い読者の心に入り込んでくる。テレビの発信する情報の浸透力はさらに強力だ。やはり署名活動や街行く人と話をしてみると、マスコミの報じた内容を尺度にして考える人が多いと感じる▼昨今の頃、テレビ・新聞・雑誌等は膨らむ日本の借金を危機的に報じ、政権与党・民主党を批判し続けてきた。だが与党が自民党と公明党になった今年、報道からは「危機」があまり感じられ無い。報道姿勢・内容が明らかに変わっている…▼我々は日々の生活に追われ余裕が無い。しかし思考停止したままでは「知らぬ間に」、税金が上がったり、原発の再稼働で核災害のリスクが増加したり、社会保障の削減によりその機能を充分果たせなくなってしまうかもしれない▼報道に接した時は、報じられた内容のいきつく先にとどのような事態(未来)が待っているのかを、「多様な角度」から検証することが大切ではないか。マスコミは必ずしも庶民の視点で報じているとは限らないのだから。(た)